



宮下 昭廣 鹿屋市教育長

豊かな心を育む読書へのいざない

携帯やゲームソフト、マンガに夢中になっていく現代の子どもたちは、日本語のもつ言葉の美しさやおもしろさに心を動かしません。物語や小説等に描かれた登場人物の歎びや悲しみ、愛や憎しみ、勇気や絆といった感情や生き方に素直に共感できない子どもや大人たちが増えてきつつあります。読書は、人間が本来持っている喜怒哀楽の感情や感性を呼び戻し、研ぎ澄ましてくれるものです。他人に対する思いやりや優しさ、困難にも自らを鼓舞しながらたくましく生きていく心の強さ、こういった豊かな心は、読書によって育まれる面も大きいのです。

国語力を高める読書習慣

インターネット等の普及に

今、多くの小・中・高校で朝読書の取り組みがなされています。さわやかな朝のスタートに、子どもたちがシーンとした静けさの中で本と向き合っています。とても素晴らしい光景です。ある教室で

親子の絆を深める読書の魅力

国語力としての理解力（読む・聞く）や表現力（書く・話す）は、学校での国語の授業はもちろん、その他の教科の授業、日常の読書活動によって培われるものです。よく本を読む子は、思考力や想像力に優れ、語彙が豊かで、理解力や表現力の優れた言葉の力を持っています。それだけに日常生活の中で読書に親しむ習慣をもつことはとても大切なことなのです。

読書は、学習や生き方のすべての基礎となるものです。たっぷりとした時間のとれるこの夏休み、感動ある素晴らしい本との出会いがあって、子どもたちの心の扉が大きく大きく開かれることを願っています。

家庭でも何分かテレビを消して、親子の読書の時間を設けてみてはいかがでしょうか。自分で選んだ本を親子で思い思いに読んだり、親が読み聞かせをしたり、一冊の本を回し読みして感想を述べあったりすることで親子の会話がふくらみコミュニケーションも深まります。せつかに感想を求める必要はありません。親子が読書の時間を通して感動する時間を共有するだけでも十分です。それだけでも親子の絆は深まります。読書はそんな力を、魅力を持っています。

教育長にきく

感動は心の扉を開く

読書は、児童生徒の人間形成に欠かすことのできないものです。子どもの頃読んだ本や、先生やお父さんお母さんに読んでもらった本が、大人になって自分のものの見方考え方、生き方に大きな影響を与え、人生の大切な指標として脈々と生き続けていることがよくあります。また、幼少の頃、お母さんが添い寝して子守歌のように読み聞かせてくれた昔話や童話に心を驚か

せ、まるでおとぎ話の世界に引き込まれていくような不思議な気分になったことも記憶にあろうかと思っています。鹿兒島県立図書館長で、1960年に「母と子の20分間読書」を提唱された児童文学者の椋鳩十先生が「感動は心の扉を開く」と言っておられます。言葉の持つ響き、美しさ、おもしろさは、子どもたちの心を揺さぶらずにはおきません。読書は、まちがちな感動体験の少ない現代の子どもたちの心の扉を開く鍵となるものです。

ぼくとわたしのおすすめの一冊

— Book Review —

寿小学校3年 中津 小雪さん

リトルプリンセス

ドラゴンのセドリックが、りょうしを助けるところが好きです。王さまに仕事をもらってよかったなあと思いました。



ケイティフェイス(著) / 泉リカ(イラスト)
ポプラ社 800円＋税

ぼくらには、無限の可能性があることを先生やお父さん、お母さんから教えてもらっています。夏休みに、少しでも体力づくりや読書をやって、可能性をのばしたいです。

寿小学校6年 米盛 一歩さん

悪夢のシグナル

主人公 唯は、6歳のころから一年に何度も同じ夢を見ていて、やがておそろしい夢が現実となっていく不思議なお話です。



早川真知子(作) / 伊藤重夫(絵)
文溪堂 1,300円＋税



こころのえほん

こころのある人には、ちゃんとした心があることが、わかるはずです。

おぼえておいてください。目にみえなくても、とっても大切なものがあるということ。

こころの大切なことが、書いてあるので、ぜひ、読んでみてください。

(凜さん)



寿小学校4年 出口 楽々さん
寿小学校2年 出口 凜さん

なかえよしを / 上野紀子(著)
ポプラ社 1,100円＋税